

課題名	21 高品質肉鶏の作出	分類	①	
	放し飼いが「はかた地どり」の発育に及ぼす影響			
試験研究年次	62～2年（完了）			
I 目的				
はかた地どりの放し飼い方式による発育成績等を明らかにし、適正飼育管理技術を確立して、生産農家の経営改善を図る。				
II 試験方法				
1 供試鶏	はかた地どり			
2 試験区分	下表のとおり（冬期試験・夏期試験共通）			
	区分	飼育方式	飼育密度	供試羽数
	A区	鶏舎飼い	30.8羽/3.3㎡	♂・♀各30羽 計60羽
	B区	"	16.8 "	"
	C区	放し飼い	16.8 "	"
	D区	"	8.7 "	"
3 飼育管理	雌雄混飼で、飼育前期は全群鶏舎飼いとし、冬期試験では10週齢時に、夏期試験では9週齢時に上記区分に分割。			
4 使用施設	鶏舎飼いは、鉄骨スレート平飼い鶏舎を使用し、放し飼いは、面積が3.4㎡でタキロンの屋根と壁を有する給飼場所を設置し、周囲を合成樹脂ネットで囲った放飼場を使用。			
5 飼育期間	冬期は元年12月～2年3月の13週齢間。 夏期は2年7月～2年10月の13週齢間。			
6 給与飼料	0～3週齢はプロイラー前期用（CP23%-ME3,000Kcal）。 4～13週齢はプロイラー後期用（CP18%-ME3,170Kcal）。			
7 調査項目	育成率、体重、飼料消費量、解体成績、腿肉の一般成分。			
III 主要成果の概要				
はかた地どりの、冬期及び夏期における放し飼いによる適正な飼育方式と、屠体及び肉質の特徴を明らかにした。				
1	冬期では、鶏舎飼いは寒さの影響が少ないため、増体量が大きく、飼料要求率が改善されることから、飼育方式として有利であるが、放し飼いで飼育密度を3.3㎡当たり20羽程度とし防寒対策に努めれば、鶏舎飼いと同等程度の発育成績が期待できる。			
2	夏期では、暑さにより飼料消費量が減少するが、育成率や増体量に対する悪影響は殆どなく、飼料要求率が改善されることから、飼育管理マニュアルに示すとおり、60日齢以後は放し飼い方式で飼育してよい。			
3	放し飼いは、体脂肪の蓄積が少ないことから、低カロリー鶏肉を生産する手法として利用できる。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 飼育成績と腹腔脂肪

(元・2年)

時期	区分	性	育成率	出荷時 体重	増体量	飼料 消費量	飼料 要求率	腹腔 脂肪
冬 期 試 験	A区	♂	100	3.87	1.12	-	-	1.9
		♀	100	2.81	0.76	-	-	5.5
		平均	100	3.34	0.94	3.78	4.02	3.7
	B区	♂	97	3.84	1.15	-	-	3.5
		♀	100	2.70	0.68	-	-	2.5
		平均	98	3.27	0.92	3.67	3.99	3.0
	C区	♂	97	3.73	1.03	-	-	2.8
		♀	97	2.73	0.68	-	-	4.0
		平均	97	3.23	0.86	3.47	4.03	3.4
	D区	♂	100	3.57	0.92	-	-	1.8
		♀	100	2.70	0.61	-	-	2.4
		平均	100	3.14	0.77	3.42	4.44	2.4
夏 期 試 験	A区	♂	97	3.44	1.26	-	-	2.9
		♀	100	2.46	0.82	-	-	4.7
		平均	98	2.95	1.04	3.69	3.55	3.8
	B区	♂	97	3.41	1.18	-	-	3.4
		♀	100	2.46	0.85	-	-	4.2
		平均	98	2.94	1.02	3.64	3.57	3.8
	C区	♂	97	3.42	1.27	-	-	2.8
		♀	100	2.46	0.86	-	-	4.0
		平均	98	2.94	1.07	3.35	3.13	3.4
	D区	♂	100	3.32	1.15	-	-	2.6
		♀	97	2.45	0.81	-	-	3.4
		平均	98	2.89	0.98	3.36	3.43	3.0

注) ① 冬期試験は10~13週齢、夏期試験は9~13週齢の成績  
 ② 腹腔脂肪は生体重に対する割合

第2表 もも肉の一般成分(冬期試験データ)

区分	水分	エネルギー I kcal	タンパク質	脂質	炭水化物
A区	74.1%	131	19.8%	5.0%	0.1%
B区	74.3	131	19.6	5.1	0.1
C区	74.5	128	19.7	4.7	0.1
D区	74.5	128	19.8	4.6	0.2

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 管理技術として農家へ提供でき、管理マニュアル改訂時の資料となる。
- 2 冬期では、放し飼い開始前における寒さへの馴致や、開始後の日中の気象変化に応じた舍内・舍外への強制移動の実施等を指導する。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 春期、秋期の放飼による影響。
- 2 雌雄別飼いにおける飼育成績。
- 3 放し飼いの最適開始週齢。

VII 資料名 元年度 福岡県農業総合試験場畜産研究所試験成績書